

北部の医療を守れ！新型コロナウイルス、パンデミックの中 二次救急の空白地をつくってはならない！！

たんぽぽだより220号において、川西市が、北部医療の確保について、市民に伝えていた「北部診療所計画」ではなく、「今井病院移転案」を進める旨を掲載しました。その後、市の広報紙等をご覧になった方々から、「知らされていないことばかり。市に都合の良いことしか掲載していない」「パブリックコメントで今井病院案に対して、たった2件しか賛成がないのに今井病院案を進めるのはおかしい」「新型コロナウイルス感染拡大が終息しない中、これから大きな自然災害が予想される中、たくさんの人口がはりついている北部に二次救急の空白地をつくってはいけない」「今井病院は『病院』というから川西病院と同じような病院かと思いついてはいたが違った」という代表的な内容にあらわれているようなご意見等を頂戴しています。

この号では改めて、北部の医療がどうなるのか整理をしてお伝えします。

「民意」「基本協定」無視

北部診療所計画は廃止

を拡大し変更を続けます。病院の統廃合・偏在化やベッド削減

今井病院移転案に係るパブリックコメントには、77人144件の意見が提出。「北部の医療を守りたい」「住民の安心・安全を確保したい」と切実で真剣な声や願いが書き込まれました。

同時に、「現病院の存続を求め、川西病院（13診療科3専門センター）が北部へ移転することを求める署名」が509筆、「今井病院建設か診療所建設かの2者択一を迫られるのならば診療所建設を求める署名」が2629筆提出されました。

新型コロナウイルスの感染拡大、医療崩壊等が報じられる中、「改めて現病院の存続を強く求める」「今井病院か診療所かではなく、どちらも必要だ」という意見がほとんどでした。「今井病院案に賛成」はわずか2件のみだったにもかかわらず、12月の救急搬送の5割が市外搬送になりました。クラ田謙治郎市長は「今井病院の移転案を進める」ことを選択、発

表しました。新型コロナウイルスは人の移動で感染

「2者択一ならば診療所だ」という意見がほとんどでした。11月にコロナのクラスターが発生した病院では救急搬送の補助金など新たな財政負担や課題が生まれます。現病院（1983年築・新耐震基準）の存続・再利用等、将来を見据えた安心・安全なまちづくり、世代

今井病院は、リハビリ病院（回復期・慢性期ベッド）のため、川西病院（13診療科3専門センター）が北部へ移転することなど市民に正確な情報が伝わっていません。

新たな今井病院案では、市有地の無償貸与、小児科（平日午前診）や休日診療（15歳以上）への補助金など新たな財政負担や課題が生まれます。現病院（1983年築・新耐震基準）の存続・再利用等、将来を見据えた安心・安全なまちづくり、世代

「北部診療所」すら無くしてしまったら

「かかりつけ医って言うけれど、近所に開業医がない。時間と金銭的な負担が増える」「総合医療センター（キセラ）と診療所は協和会が指定管理者だった、連携して患者を診ると言っていたのにシャトルバスまでなくすなんて酷過ぎる」「内科1診でも24時間駆け込める所があると期待していたのに」「たくさんの住民が住み・通う北部地域、病院をなくして世代交代できるのか」

現・市立川西病院

- * 250床・二次救急病院（救急搬送・入院・手術）
- * 232床（現在197床）
- 地域包括ケア病棟
- 緩和ケア病棟



13診療科3専門センター

- * 内科（消化器内科、循環器内科、糖尿病・内分泌内科）、小児科、外科、緩和ケア外科、整形外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、泌尿器科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、病理診断科
- * 消化器内視鏡センター、生活習慣病センター、乳腺センター

* 土地 14936㎡
(指定管理者との基本協定書の内容)

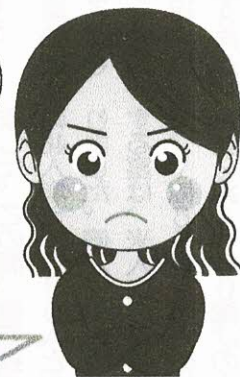
駐車場 179台分確保

保健センター内の応急診療所が北部へ

これで地域医療は

守れるか

まだ何の予算もついていません



市の医療構想が発表されてから、新型コロナウイルス感染爆発（パンデミック）が、2月13日深夜東北で大地震が。今、病院の統廃合やベッド削減を進めてはなりません。命を生み、育み、守る川西市にしましょう！

今井病院移転案「(仮称)川西リハビリテーション病院」

- * 現川西病院敷地約6300㎡（無償貸与）
- * 160床（回復期床120床、障がい者床40床（慢性期）回復期床のうち20床は地域包括ケア床）
- * 外来・午前診（月～金、内科・小児科各1診）診察室3室以上
- * 休日診（日・祝・年末年始）（内科1診（15歳以上）10:00～11:30、13:00～16:30）
- * 検査（CT、エックス線など）